

国語科学習指導案（2年2組）

1 単元名 福祉体験学習のレクリエーションを提案しよう

2 考察

(1) 教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置付け

- 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと <A話すこと・聞くこと イ>

②伸ばしたい資質・能力

- 相手意識や目的意識をもち、話の内容や構成、展開などを工夫しようとする態度。
- 複数の立場や考えを踏まえて話の内容を考え、話の構成や展開を工夫する力。
- 相手や目的に応じて、それにふさわしい形態や展開があることを理解すること。

③そのために必要な指導・学習活動

- 1学期に行った1回目の福祉体験学習から、利用者、職員、部屋の大きさや備品などの施設の様子を思い出し、どんなレクリエーションを行うことができるか考える。
- それぞれの施設を担当している教員に対し、どのように提案すればレクリエーションの意義や有効性などが伝えられるかを考えて、資料や話の展開、構成などを工夫する。
- 班員への提案と教員への提案とを比べ、相手や目的によってそれにふさわしい内容や話し方、話の構成、展開があることを理解できるようにする。
- 提案の練習をそれぞれの班が互いに行うことで、レクリエーションの内容を修正したり、論理的で分かりやすい話の展開や構成について理解したりできるようにする。

④今後の学習への活用

- 第2学年の10月に学習する「話を聞いて自分の考えと比べる」において、論理や構成の仕方を評価しながら聞く力を高めることにつなげる。
- 第2学年の2月に学習する「役割を決めて討論する」において、理由や根拠を明確にして提案したり、別の立場から意見を述べたり質問したりする力を高めることにつなげる。

(2) 生徒の実態（男子18名、女子15名 計33名）

①既習の学習内容や活動

- 第2学年の5月に学習した「図表を用いて提案する」において、東京校外学習で自分が行きたい場所を提案する活動を行い、台本をもとにプレゼンテーションを行うことや図表などの資料を用いて構成や展開を考えて話すことなどについて学習した。

②本単元に関わる生徒の実態

- 授業で発表を行うことについて、「恥ずかしい」、「自分の考えが伝わらない」、「何のためにやるのか分からない」などの理由から、22名の生徒が苦手意識をもっている。しかし、東京校外学習で行きたい場所を提案する活動を行った際には、意欲的に活動に取り組む様子が見られた。また、話の構成や展開については、理由を述べながら主張をするという一般的な型は理解して使える生徒が多い。しかし、それを工夫して表現しようとする意識をもっている生徒は多くない。そこで本単元では、実際の場面をより具体的に設定して提案を考えさせ、目的意識や相手意識を更に高めることで、話の展開や構成について工夫しようとする態度を育みたい。
- 東京校外学習で行きたい場所を提案する活動を行った際は、教科書に載っている台本に沿って提案理由などを挙げながら提案を行ったため、展開や構成はほぼ一様であった。そこで本単元では、既習の知識・技能を自分の表現に生かし、話の順番や資料を提示するタイミングなどで受け手の反応や受け取り方が変わること理解させることで、論理的で分かりやすい説明について理解し、身につけさせたい。また、利用者や職員の立場からも考えることで、複数の立場を踏まえて考えを述べることで、より説得力のある話につながることを理解させたい。

- ・「話す相手や目的によって、自分の話し方や順番等を考えて話しているか。」という質問に対し、発表に対して苦手意識をもっていない生徒のうち9割が「考えて話している」と答えた。しかし、苦手意識をもっている生徒のうち8割は「考えて話していない」と答えた。そこで本単元では、生徒のクラスの友達への提案と教員への提案とを比べて、どのような違いがあるかなどを考えさせることで、相手や目的に応じて、それにふさわしい形態や展開があることを理解させたい。

3 単元の目標

どのようにすれば相手に伝わるかを考えてレクリエーションを提案する活動を通して、相手意識や目的意識をもって話の展開や構成を工夫することができる。（話すこと聞くこと イ）

4 指導計画（全5時間予定）

時間	伸ばしたい 資質・能力	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点	評価の観点		
				関	話	言
評価 規 準	【関】 相手意識や目的意識をもち、話の内容や構成、展開などを工夫しようとしている。 【話】 複数の立場や考えを踏まえて話の内容を考え、話の展開や構成を工夫している。 (イ) 【言】 相手や目的に応じて、それにふさわしい形態や展開があることを理解している。 イ(オ)					
第1時	・相手意識や目的意識をもち、話の内容や構成、展開などを工夫しようとする態度。	<ul style="list-style-type: none"> ○「福祉体験学習で行うレクリエーションを提案しよう」という本単元での目標をつかむ。 ○第1回の福祉体験学習を振り返って、利用者、職員、部屋の大きさや備品などの施設の様子などをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習目標を提示することで、本単元への見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○第1回の福祉体験学習の振り返りをさせることで、相手意識や目的意識をもって学習に取り組めるようにする。 	○		
第2時 第3時	・相手や目的に応じてそれにふさわしい形態や展開があることを理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉施設で一般的に行われているレクリエーションについて調べる。 ○レクリエーションの種類やその内容、注意点などを全体で共有する。 ○提案の目的や方法、注意点等について、既習事項を振り返りながらまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○iPadを複数台用意し、円滑かつ効率よく調べ学習が行えるようにする。 ○前時に振り返った施設の様子とそれに合うレクリエーションとの整合性を考えられるようにする。 ○既習の学習内容を想起させることで、その内容を生かしたり、展開や構成を工夫したりできるようにする。 		○	
第4時 第6時 (本時は5)	・複数の立場や考えを踏まえて話の内容を考え、話の展開や構成を工夫する力。	<ul style="list-style-type: none"> ○まずは個人で、班員への提案を考える。 ○個人の提案を班ごとに行い、班の提案へとまとめていく。 ○どのように提案すればレクリエーションの意義や有効性などが伝えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達への提案と教員への提案の両方を比べ、相手や目的に応じて、それにふさわしい形態や展開があることを理解できるようにする。 ○担当の教員への提案であることを確認し、目的意識をもって活動に取り組 		○	

		かを考えて提案を作成する。 ○複数の班で提案の練習を行い、レクリエーションの内容と発表方法についてアドバイスをし合う。 ○発表内容や方法について振り返りを行い、効果的な話の構成や展開についてまとめる。	めるようにする。 ○他の班の提案を聞き合うことで、レクリエーションの内容を修正したり、論理的で分かりやすい話の展開や構成について理解したりできるようにする。			
--	--	--	---	--	--	--

6 本時の展開 (5/6)

(1) 目標

福祉体験学習のレクリエーションについての担当教員への提案を聞き合うことを通して、施設の利用者や職員、教員などの複数の立場の考えを踏まえて根拠を挙げながら提案を行い、レクリエーションの内容について検討し合い、論理的で分かりやすい話になるよう構成や展開を工夫して話す。

(2) 準備 伝え合う言葉 中学国語2 (教育出版)、提案資料、ホワイトボード

(3) 展開

展開		◎評価項目に対する補充的な支援	
学習活動と予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価	
構成や展開を工夫して、論理的で分かりやすい提案をしよう。			
<p>○前時の続きで、それぞれの施設を担当している教員に対し、どのように提案すればレクリエーションの意義や有効性などが伝えられるかを考え、提案に使うフリップの作成や内容の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○先生に伝わるようにどんなレクリエーションなのか実際にやってみたらどうかな。 ・車いすの利用者さんが多かったからこのレクリエーションにしたんだということが伝わるようにしたいね。 <p>○複数の班で提案の練習を行い、アドバイスをし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション自体は楽しそうだけれど、利用者さんみんなが楽しめるのかな。 ・フリップで施設の様子が分かりやすくまとめられているな。 ・この班はどんなレクリエーションをやるのかがわかりやすいな。どうしてだろう。 ・○○先生だったら、この班の 	<p>1 0</p> <p>3 5</p>	<p>○前時に準備した提案を修正する時間を設けることで、資料や話の展開、構成などを工夫できるようにする。</p> <p>○施設ごとに2～4人の12班に分かれ、5分前後の提案について、フリップの作成や内容の検討を行う。その際、台本はあえて作成を促さないことで、相手の反応を見ながら提案が進められるようにする。また、班員全員が提案の中で話す機会を設けられるよう指示する。</p> <p>○どの教員に提案するかを確認することで、相手意識をもって提案ができるようにする。</p> <p>○班ごとに修正をしている段階での工夫点を全体に紹介することで、様々な工夫の仕方に気付き、その後の活動が更に活発に活動が行えるようにする。</p> <p>○教室の四隅を使い、4つの班ごとに発表練習を行う。</p> <p>○聞き手には「レクリエーションの内容」と「発表方法」の2つの視点を与え、提案を聞きながらホワイトボードに気付いたことを書かせていくことによって、主体的に聞けるようにする。</p> <p>○発表後に質問助言の時間を設け、ホワイトボードに書いたことを提案した班に伝えられるようにする。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【話】 論理的で分かりやすい提案となるよう、根拠を挙げながら、構成や展開を工夫して話している。 (観察)</p> </div>

<p>提案を聞いて、…という質問をしてきそうだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手と一緒にレクリエーションをやっている班があるな。 <p>○発表内容や方法について振り返りを行い、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口で説明するのが難しい内容は、フリップに書いて伝えたり、実際にやって見せたりすると良いということが分かった。 ・提案する相手と一緒にレクリエーションを実際にやってみるという方法もあるのだな。 	5	<p>◎構成や展開の工夫に気付かない生徒に対しては、他の班の提案でおもしろいと思った点や分かりやすいと思った点を参考にするよう促す。</p> <p>○発表態度や内容について良かった点を挙げさせたり教師が指摘して賛辞したりすることで、今後の実践意欲が高まるようにする。</p> <p>○感想の発表からそれぞれの班に見られた工夫点へと焦点化することで、次時へとつなげられるようにする。</p> <p>○次時は、本時で気付いた様々な工夫の仕方を共有し、論理的で分かりやすい話の展開や構成について理解できるようにする。また、それを踏まえて提案を修正し、総合的な学習の時間での発表準備を整えるという見通しをもたせられるようにする。</p>
--	---	--

<p><目標とする生徒の意識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんや施設の様子などを根拠として挙げていると、説得力のある提案になるのだな。 ・レクリエーションの内容やそれを選んだ理由をはっきりと伝えたり、レクリエーションを実際にやって見せたりすることで、レクリエーションの内容が分かりやすくなるし、自分の思いが相手に伝わるような分かりやすい提案になるのだな。 ・いつも発表となると紙に書いたことを読み上げるだけになってしまっていたけれど、今度からは、聞き手のことを考えて話す順番や内容を考えられるようにしたいな。
--